

人権なら

2017年6月1日

第78号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

人間のあい方を見つめ

田原本町企業内人権教育推進協が総会

田原本町企業内人権教育推進協議会が5月23日、青垣生涯学習センターで2017年度総会を開いた。

総会では、県立高等養護学校1年生3人の生徒が社会体験として会場準備や受付業務を手伝った。今年で5年目。先生からは、この取り組みは進路指導の一環。個別企業でも機会の提供を、と要請があった。



中村聡・会長(奈良トヨタ(株)取締役)が「人間のあり方を見つめ、広い視野で人権課題に取り組む」とあいさつ。森章浩・田原本町長、松本荘司・町人権教育推進協議会会長、中筋英司・桜井ハローワーク所長が来ひん紹介され、代表して森町町長があいさつした。

議事に移り、2016年度事業報告、同会計報告、同監査報告、2017年度事業計画案、同予算案が提案され、いずれも承認された。

喜多学志・施設長が講演

記念講演は、社会福祉法人「ひまわり家」の喜多学志・施設長が「県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例について」と題して話をした。また、通所する障害者2人が、自らの体験や活動を語った。



喜多さんは「ひまわりの家」の活動を紹介し、条例制定の流れを報告した。広陵町・大橋製作所が長年、

劣悪な労働環境下で障害者を差別虐待し働かせていた事件や、下市町の車いす中学生の入学拒否事件を紹介。当事者たちが裁判闘争の勝利を経て、条例の制定を駅や街頭などで訴え、ビラまきや署名集めを行い、県議会に請願し、実現してきた、と語った。

2人の障害者も、差別を許さず、今後も取り組んでいく、と話した。

「米田富記念碑」を清掃

五條市にある米田富さんの「記念碑」を5月7日、清掃した=写真。毎年、取り組んでいる。この日は朝から晴れ上がり、汗ばむ陽気となった。

記念碑には、「運動は自己変革からはじまるもんやだから自己にきびしく運動には誠実にとわたしは闘い続けてきた」と刻まれている。

米富さんが1988年5月4日に死去して、29年経つ。石碑が建立されたのは2000年5月4日。このとき、除幕式と集いが盛大に行われた。



2010年の23回忌は広陵町にある親族宅で執り行われた。続く5月8日、記念碑前で集いが開催された。山下力さんは「解放同盟の解散とNPOなら人権情報センターへの移行、反差別・人権交流センター(絆)の立ち上げを進めてきた。このことを、米田富さんはどう思っておられるのか」と感慨深げに問いつつ、この先が決して平坦でないことを改めて噛みしめている、と語っていた。集いには、藤田敬一さん、金城実さんも駆けつけてくださった。

「やまゆり園事件」1周年行動

実行委にNPOなら人権情報センターも加入

やまゆり園事件1周年行動実行委員会が4月20日、奈良市三条にある「はぐくみセンター」で会議を開いた。実行委は奈良県精神障害者家族会連合、奈良県障害者協会、ピープルファースト奈良、障害者差別をなくす条例推進委員会



の4団体が呼びかけ、NPOなら人権情報センターや、反差別・人権交流センター(絆)も参加している。

相模原やまゆり園障害者殺傷事件は7月26日で丸1年を迎える。事件の「衝撃と憤り」は癒えることがない。それどころか目の前に広がる状況は、「不安」をより増大させているようにさえ感じられる。

7月26日に奈良市中部公民館で集会を開催

報告で、①地元神奈川でのヒヤリングで、「建て替えが解決なのか」「地域での暮らしを保障すべきだ」といった意見が多く出たことで、再検討になる②「匿名」への違和感から、殺された19人の歩みを掘り起こす活動が始まっている③植松聖(さとし)被告は、「責任能力」が認められ、裁判員裁判になる、と説明された。

論議では、「話を聞く集会ではなく、自分たちが主張する場にしたい」「多くの市民に参加してもらい、発言してほしい」などを受けて、集会の開催を決めた。

1. 集会名称:「やまゆり園事件から1年 地域で暮らしていくために、今何が足りないか」
2. 主催:「相模原やまゆり園事件から1年」奈良実行委員会・障害者差別をなくす条例推進委員会
3. 日時:7月26日(水)午後6時30分～
4. 場所:奈良市中部公民館大ホール

また、集会要綱や任務分担のほか、生駒駅、近鉄奈良駅、近鉄八木駅などでの街宣活動も確認した。

次回実行委は6月6日、はぐくみセンターで開く。

「社会づくり条例」を情宣

ひまわりの家メンバーらが天理駅前

「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」の情宣活動が4月26日、天理駅前であった。ひまわりの家メンバー・スタッフらが参加した。

小雨が降るあいにくの天気だったが、ビラまきや、マイクを交代しながら持ち、「条例」のことや、昨年7月



26日に相模原で起きた「やまゆり園殺傷事件」のことなどについて市民に訴えた。

情宣活動では、障害者差別をなくす奈良県条例推進委員会副委員長の藤本隆二さんのアピール文「相模原やまゆり園事件に思う」(2016年11月17日)も読み上げられた。

障害者がありのままで生きていられる社会を

藤本さんのアピール文は次の通り。

やまゆり園で19人の障害者が殺された。犯人はやまゆり園の元職員の男だった。彼自身も障害者だと聞くと、複雑な気分になってしまう。彼はなぜこの事件を起こしたのか。障害者をあつてはならない存在とする優生思想が、彼を凶行に走らせたと思う。



私は思う。この社会の中から障害があるより、障害がない方が良く考える人がいる限り、障害者は殺される立場だ、と。

また、私は思う。障害者がありのままで生きていられる社会をつくらなければ、第2、第3のやまゆり園事件が起こるかもしれない。

障害者が生きていられる社会をめざして。

5・15沖縄平和行進で行動

民衆の力、キャンドル・パワーで共に闘おう

5・15沖縄平和行進と、「沖縄にキャンドル・パワー 沖縄連帯集会」に昨年に続き、参加した。今年は韓国から40人を超える「平和行進団」が訪れ、行動を共にした。



11日 午後。「平和行進結団式」に参加。会場で沖縄の友人、韓国からの参加者と合流した。集会では、山城博治・実行委員会委員長が元気一杯にあいさつ。海外ゲストを代表して、ソン・ミヒさん(コリア国際平和フォーラム)が「非暴力の民衆の力(キャンドルパワー)で新大統領を誕生させ、ここ沖縄に来ることができた。東アジアの平和のために共に戦おう」と、訴えた。

12日 県庁前広場を出発。午前中は南部・戦跡コースに参加。午後は初めての参加者が多かったため、平和祈念公園・平和の礎・資料館・韓国人慰霊塔・ひめゆり資料館など、南部戦跡を回った。

読谷村を訪れ、金城実・知花昌一さんと交流

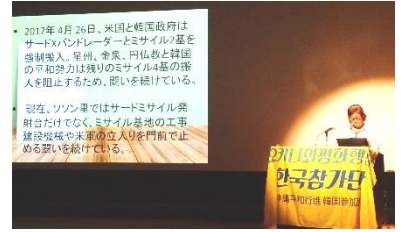
13日 午前。読谷村にある「恨の碑」を訪れた。だが、大雨と雷のため、金城実さんのアトリエに移動。知花昌一さんから「恨の碑」建設の話、金城さんから大阪文の里中学・夜間学級での「オモニの像」制作の話等を伺い、交流した=写真。



このあと、佐喜眞美術館を訪問。佐喜眞道夫・館長が案内してくれた。丸木位里・俊さんの描いた「沖縄戦の図」に圧倒された。

午後。県立博物館・美術館であった「沖縄にキャンドル・パワー 沖縄連帯集会」(写真)に参加。佐藤学さ

ん(沖縄国際大学)が「トランプに世界を壊させない・東アジアから平和を！」をテーマに講演。続いて、安次富浩さん(ヘリ基地反対協)がオール沖縄の辺野古新基地阻止・緊迫の現地を報告。オール沖縄実現の経過を紹介し、「この戦いは沖縄の未来をかけた戦いであり、非暴力・不服従の抵抗の民衆の戦いだ。東アジアの民衆と共に戦い抜く」と語った。



また、ドキュメント「高江-森が泣いている」(特別編集版・韓国語字幕)が上映された。藤本幸久、影山あさ子共同監督が登壇し、アピール。コ・コルニさん(江汀<カンジョン>村済州海軍基地反対対策委員会委員長)が「江汀闘争10年」を報告。チョン・ジョンミさん(コリア国際平和フォーラム)が「星州サード配備阻止運動過程と意義」を報告した。

2200人が「座り込め ここへ」を大合唱

14日 名護市瀬嵩海であった「復帰45年 5・15平和とくらしを守る県民大会」に参加。川口真由美&YASUさんに山城博治さんも加わり、歌「座り込め ここへ」でオープニング=写真。会場を埋めた2200人も一緒に大合唱。盛り上がった。集会では、海外ゲスト、コ・コルニさんが発言した。



集会後、辺野古の海で戦い続けるカヌー隊抗議船に呼応し、デモ行進。そのあと、交流会が開かれた=写真。



15日 「高江・辺野古チーム」「南部戦跡チーム」などに分かれて行動。午後便で大阪に戻った。翌16日は、韓国・ピョンテク基地ネットワークの若者2人と大阪で合流。釜ヶ崎-新世界-文の里中学・夜間学級(オモニの像)-鶴橋(コリアタウン)を案内して回った。

済州4・3事件追悼集会

きむきがんさんが一人芝居「足跡」を熱演

「済州4・3事件69周年追悼集会」が4月23日、大阪・生野区民センターであった。在日本済州四・三事件遺族会会長の呉光教(オ・クァンヒョン)さんが「70年前の3月1日、済州の観徳亭で6人の尊い命が奪われました。この日から済州島民への抑圧、弾圧、そして闘いが始まりました。1948年4月3日、済州4・3の蜂起が始まり、1954年9月まで実に7年以上に及ぶ悲劇の島でありました。50周年を機に大阪で済州4・3事件の犠牲者慰霊祭を始め、すでに20年近い歳月を経ました」と、静かに追悼の辞を述べた。



続いて、済州四・三平和財団理事長・李文教(イ・ムンギョ)さん、済州四・三犠牲者遺族会会長・梁閔京(ヤン・ユンギョン)さんがあいさつ。済州議会関係者が紹介された。

済州少年少女合唱団「チェラジン」の歌と踊りのあと、きむきがんさんが一人芝居「足跡」を演じた＝写真。

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

政府が「テロ等準備罪」と呼ぶ「共謀罪」が衆院を通過した。まともな審議もないままの強行可決だ。メディアは朝日、毎日、日経が「共謀罪」。読売、産経は「テロ準備罪」と報じる。この法案に納得していない国民は数多い。だから、言葉のすり替えや、本質を隠す報道は許されない。戦争法は「安全保障法制」、武器輸出は「防衛装備の移転」、戦闘は「衝突」など、政府発表のまま伝えては、ジャーナリズムではない。政府は「丁寧に説明」、メディアは「説明が必要」とよく言う。これの繰り返しだ。結局、うやむやのまま事は運ぶ。国民は舐められている。政治が歪むと、社会も歪む。

「4・3事件当時、国家公権力が起こした大虐殺の意味を、ある在日同胞家族の記憶を通して」描いた作品だ。歌と音楽は崔相敦(チェ・サンドン)さん。



芝居の物語が進むと、涙が頬をつたう。笑い涙が会場全体に広がった。最後に、参加者全員が祭壇に献花した。

本橋成一「在り処」展を開催

本橋成一「在り処(ありか)」展が7月17日(月・祝)まで奈良市写真美術館で開催中だ。



本橋さんは1960年代から市井の人々の姿を写真と映画という2つの方法で記録してきたドキュメンタリー作家。炭鉱、屠場など人々の息づく場をフィールドとし、社会の基底にある人間の営みの豊かさを写し出してきた。映画「祝の島」「ある精肉店のはなし」もプロデュースした。



本展では約200点を展示。半世紀に及ぶ写真家としての軌跡を紹介している。6月10、11日の午前10時と午後2時から映画『アレクセイと泉』上映会も。

場所は奈良市高畑町600-1(JR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バスで「破石町(わりいしちょう)」下車、10分、新薬師寺西側)。TEL0742-22-9811。月曜日は休館(7月17日は開館)。観覧料は500円。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/